

## CLA スタージュ 報告書

大池惣太郎

2024年8月5日(月)から8月16日(金)、CLA プザンソンの語学教育研修に参加した。参加動機として、単調になりがちな初等フランス語の授業を、今よりも楽しく双方向的にする方法を知りたいと考えていた。以下、研修のおおまかな内容と、それを通じて考えたことを簡単に報告する。

### 1. 研修概要

スタージュでは、各自があらかじめ選択したコースに沿って、サブテーマを扱う「モジュール」を四つ受講する(各10時間)。報告者の場合、コース3「クラスの活動内容を豊かにする」に登録し、「演劇や動き、身振りを使って教える」、「遊びを用いた創造的アクティビティをクラスに取り入れる」、「書く練習を活気づける」、「文法を違ったやり方で教える」等の授業を受けた。コースの参加者は12名ほどで、授業は主にワークショップの形式で進んだ。以上に加えて、任意参加式の「フォーラム」(文化講座や課外活動など、各2時間)を最低5つ受講することで、計50時間の研修修了が認められる。

例)「コース3」の時間割例

PARCOURS 3 : ENRICHIR SES PRATIQUES DE CLASSES QUINZAINE 3					
Semaine 1					
	Lundi 05/08	Mardi 06/08	Mercredi 07/08	Jeudi 08/08	Vendredi 09/08
8h30 - 10h 1h30	Accueil 8h30 Salle 107 Séance Login 9h30	9h00 - 12h00 13h00 - 14h00 Enseigner avec le théâtre, le mouvement et la gestualité	Enseigner avec le théâtre, le mouvement et la gestualité	Introduire des activités ludiques et créatives en classe	8h30 - 10h15 Introduire des activités ludiques et créatives en classe Francine BEISSEL Salle Quemada
10h15 - 20h45 1h30	10h30 - 12h00 Enseigner avec le théâtre, le mouvement et la gestualité Lydia DIAGANA salle Quemada	Lydia DIAGANA Salle Quemada	Lydia DIAGANA Salle Quemada	Francine BEISSEL Salle Quemada	10h30 - 12h30 Forum/atelier Salle 107-Labo 007
13h30 - 15h30 2h	Enseigner avec le théâtre, le mouvement et la gestualité Lydia DIAGANA Salle Quemada	Enseigner avec le théâtre, le mouvement et la gestualité Lydia DIAGANA Salle Quemada	Introduire des activités ludiques et créatives en classe Francine BEISSEL Salle Quemada	Introduire des activités ludiques et créatives en classe Francine BEISSEL Salle Quemada	
Forum/Atelier Salle 107-Labo 007					
Semaine 2					
	Lundi 12/08	Mardi 13/08	Mercredi 14/08	Jeudi 15/08	Vendredi 16/08
9h - 10h30 10h45 - 11h45	Module libre Salles 107-404-408	Module libre Salles 107-404-408	Module libre Salle 107-404-408	Férié	Module libre Salles 107-404-408
13h - 15h30 2h30	Dynamiser les pratiques de l'écrit Francine BEISSEL Salle 107	Dynamiser les pratiques de l'écrit Francine BEISSEL Salle 107	Dynamiser les pratiques de l'écrit Francine BEISSEL Salle 107	Férié	Dynamiser les pratiques de l'écrit Francine BEISSEL Salle 107
Forum/Atelier Salle 107-Labo 007					

上記のプログラムに加えて、授業の合間や終了後に、世界各地から集まった参加者と交流することも、スタージュで得られる貴重な経験である。研修には年齢・国籍とも多様なフランス語教員が30名ほど参加していたが、教歴や立場、ターゲットとする生徒は様々だった。

3歳児に初等教育の第一外国語としてフランス語を教えているケースから、国外からの就業者に実用的な見地で語学実習を行なっているケース、あるいは所属のフランス語教育機関を代表して FLE の導入を検討しに来たケースなどもあり、全体として見れば、母国の高等教育機関で第二外国語としてフランス語を教えている教員の方が少数だった。こうした参加者の多様性が、何よりこのスタージュに知的な活気を与えていると感じた。

## 2. 授業の内容

以下、受講した授業のいくつかについて、部分的にコメントする。

### - Enseigner avec le théâtre, le mouvement et la gestualité / Lydia DIAGANA

演劇や身体運動の要素を授業にどうやって取り入れるか、その利点はどこにあるかを、ワークショップを通じて考える授業。実際に体を動かしたり、演劇を鑑賞・再現・構想したりする種々のアクティビティを行った。その大半は、動けるスペースが必要であるため、いつでも簡単に採用できるわけではないが、身振りや演劇的要素の重要性を考えさせられた点で、とても有意義だった。

身振りや演劇性は言語習得において言うまでもなく大切な要素だが、たとえ語学学習に直結しなくても、そうした要素を授業に取り入れる意義は様々にあるという点を今回学んだ。たとえば、実習した WS の一つに、教室のスペースを自由に歩き回り、そこですれ違った相手に質問をして、後でその答えを全体に報告するというものがあった。「歩き回る」こと自体に学習効果はないが、このプロセス抜きで同じ演習した場合、質問→記憶→反復というコア作業が前景化して、やっていることが無味乾燥に見える。身体を動かし、儀式的過程を踏むことによって、露骨な目的意識を弱め、遊びの中で自然と活動に参加しやすくなる。

とはいえ、作業の無償さがあまりに際立ったり、参加者がそれに乗り気でなかったりする場合、教室が白々しくなるリスクもある。参加者が大きな強制を感じない程度の、平易で単純なルール設定が重要であり、その按配には工夫と経験が必要だと感じた。

### - Introduire des activités ludiques et créatives en classe / Francine BEISSEL

この授業では、クラスを活気づける様々な遊戯的アクティビティを試した。簡単に実行できそうなもの（たとえば 30 秒で特定のカテゴリーの単語を何個言えるか競うなど）もあったが、多くはそのまま自分の教室で使うのが難しいと思われた。たとえば、自分のイニシャルと合致する動物+形容詞の組み合わせで自己紹介をするという、ブリーズ・グラス向けの演習があった（ex. « Bonjour, je m'appelle Sotaro OHIKE. Je suis un Serpent Ondulant. »）。これはレベルとしては A1 からが想定されていたが、実際にそれを楽しみつつ実行するならば、報告者が教える環境では、学部 2 年生でも語彙的に心許ないと思う。

また、語学に限らず興味深い演習もあった。たとえば、配布されたジャーナリスト的な写真をペアで分析し、即興的に口頭で紹介する、というアクティビティがあったが、これなどは対象を体系立てて描写、論述する練習として日本語で行っても十分に学習効果が

ありそうである。それだけに、フランス語で行うのはいっそうハードルが高いとも言える。

#### - Dynamiser les pratiques de l'écrit / Francine BEISSEL

この授業では Expression Écrite を双方向的かつクリエイティブにする様々な方法を実習した。実際にどれも参加して楽しく、演習のアイデアも豊富に蓄積されているようである。

その一方、自由度の高い EE の演習は、参加者にある程度の表現意欲と言語的融通を求めるとも感じた。モジュールの担当者である BEISSEL 先生は、「A1 クラスでもクリエイティブな EE の演習は可能」と再三述べていたが、「言葉で遊ぶ」にはやはりある程度広い言語能力の裾野が必要だと感じた。

### 3. 研修全体の感想

全体を振り返ると、ワークショップ等を通じて各国の多様な教員と交流できたことが、何より素晴らしかった。CLA の側も、そうした参加者の多様さをよく理解しているので、「定まった教授法を教える」といったスタンスではなく、「こちらの知る色々な授業の可能性を共有するので、各自使えることを持ち帰ってください」といったオープンな雰囲気だった。

さまざまな国からきた参加者と交流する中で、日本語を母語とする学習者がフランス語を学ぶ難しさについても、あらためて気付かされた。義務教育で自己表現の訓練をほとんど受けないことや、他文化的状況に不慣れであるといった文化面の特徴に加えて、言語としても、母語の認知言語学的なモジュールを単純にスライドして対象言語を理解できる幅が狭い。実際、タスクとして同程度のことをこなせる（=同じ niveau の）ヨーロッパ語圏・文化圏の学習者と、東アジア語圏・文化圏の学習者がいたとして、言葉を使った遊びやクリエイティブな作文をする場合には、おそらく後者のパフォーマンスが前者より若干落ちることが多いのではないか。

現在の FLE の方法論では、学びの主体がつねに学習者側にあるよう配慮することが一義的に重視される。今回報告者が参加したモジュールの多くも、学習者が授業で主体性を発揮するための方法を工夫するための内容である。実際にそうしたアクティビティに参加することで、その面白さや効果をいっそう深く実感することができた。それと同時に、日本文化・日本語の相対的な遠さを考慮すれば、特に初級～中級の学習者に対しては、単語を覚え、フレーズを理解し身に馴染むまで繰り返すといった古典的学習方法にも、無視できない利点があるとも考えさせられた。今回の研修で得られたさまざまな知見や方法をうまく取り入れつつ、学習者に合ったスタイルをその都度調整しながら作っていければと思う。

### 4. そのほか

滞在補助費について、フランス到着時に空港内の Western Union のオフィスで受け取ることが推奨されていたが、これはズサンソンの Western Union の取扱事務所が頻繁に移動するので案内しにくいという事情によるようなので、現地でも受け取り可能である。

実際に、報告者はブザンソンで補助費を受け取ったが、google マップで探した場所には tabac しかなく、店主に心当たりの住所を教えてもらい、そこから数店舗、通信業の代理店やパン屋、郵便局などを訪ね歩いて（ときには、「Battant 通りに行ってアルジェリア人のムスタファを探せ」といった曖昧な情報を辿りながら）ようやく取扱店を見つけた。

スマホの普及によって道案内のアクティビティは無意味になったと聞かれるが、旅先で道を訪ねたり、住所を記憶したりすることは、やはり必要であると身をもって学んだ。

滞在を通じて、さまざまな学びに満ちた素晴らしい研修だった。このような貴重な機会をいただいたことに対し、日本フランス語フランス文学会、日本フランス語教育学会、在日フランス大使館の関係各位、とりわけスタージュ運営委員会の皆様と大使館文化部の萩尾英理子様、そして研修中に知り合った各国の同僚の皆様に心からお礼を申し上げたい。

## Résumé

Sotaro OHIKE

Du 5 au 16 août 2024, j'ai participé au stage d'été de FLE au CLA de Besançon, dans le but de découvrir des outils et des méthodes permettant de rendre les cours plus dynamiques et interactifs. Voici les modules que j'ai suivis dans le cadre du parcours 3 : « Enrichir ses pratiques de classe » :

- Enseigner avec le théâtre, le mouvement et la gestualité (par Mme DIAGANA)
- Introduire des activités ludiques et créatives en classe (par Mme BEISSEL)
- Dynamiser les pratiques de l'écrit (par Mme BEISSEL)
- Enseigner la grammaire autrement (par Mme HARRAB)

En plus des cours mentionnés ci-dessus, principalement organisés sous forme d'ateliers, 10 heures de « forums » (incluant des cours culturels, des excursions, etc.) sont nécessaires pour compléter le programme de formation. Une trentaine d'enseignants de français, de divers âges et nationalités, y ont participé en tant que stagiaires. Leurs parcours professionnels et leurs publics cibles étaient très variés. Il est d'ailleurs frappant de constater que ceux enseignant le français comme deuxième langue étrangère dans l'enseignement supérieur de leur pays d'origine étaient en minorité.

Cette diversité parmi les participants, en plus de la richesse du programme du CLA, a grandement contribué à la dynamique intellectuelle de la formation. Les formateurs du CLA semblaient en être pleinement conscients, adoptant une approche non pas centrée sur une formation descendante, mais sur un partage ouvert et amical de connaissances et de méthodes comme collègues de la même profession. Cela a rendu notre stage encore plus convivial et interactif.

Les cours auxquels j'ai participé avaient pour objectif de proposer divers moyens permettant de rendre les apprenants plus actifs en classe. Les enseignants doivent imaginer des activités parfois ludiques et créatives, non pas simplement pour rendre le cours divertissant, mais pour encourager les apprenants à prendre l'initiative de leur propre apprentissage. À travers différents ateliers, j'ai découvert de nombreuses activités efficaces, ce qui m'a permis de mieux saisir l'importance de cette initiative. En parallèle, j'ai également constaté que la méthodologie traditionnelle grammaire-traduction — basée sur la mémorisation du vocabulaire, la répétition de phrases, la compréhension de la grammaire, etc. — reste efficace pour les apprenants japonais, surtout jusqu'au niveau intermédiaire. En effet, ils ne sont pas toujours habitués à l'attitude active requise par les méthodologies ou approches récentes du FLE (approche communicative ou perspective actionnelle). Grâce aux connaissances et méthodes acquises lors du stage, il me sera essentiel de concevoir des projets de cours adaptés à chaque contexte.

Ce stage a été une expérience extrêmement enrichissante, tant sur le plan des rencontres que des réflexions et de la formation. Je tiens à exprimer ma profonde gratitude à toutes les personnes qui ont contribué à cette occasion.

## 2024 年夏季スタージュ報告

梶原 久梨子

2024 年 8 月 5 日から 16 日まで、フランス東部ブザンソン市にて、フランシュ=コンテ大学付属応用言語センター（以下 CLA）主催のフランス語教員研修に参加しました。この報告書は事前準備やスタージュの授業、ブザンソンでの 2 週間の生活について記すものです。参加を検討される方、参加される方の参考になれば幸いです。

### 事前準備について

4 月上旬ごろから大使館文化部の萩尾さまを通しての手続きが始まりました。自分が登録するコース（Parcours と Module、それぞれ 1 つずつ）を選択する必要があります。前年とカリキュラムが変更になったこともあり、このときあまり授業に関する情報がなく、タイトルだけで選ぶ必要がありました。5 月ごろに宿泊先のバウチャーや TGV のチケットがメールで送られてきて、7 月に奨学金受け取りに関する連絡をいただきました。年により連絡の時期は異なるかもしれません。事前準備といってもそれほど複雑ではなく、Campus France に提出する dossier de bourse de stage と、CLA の登録が主なものです。

### 奨学金受け取り・滞在先などについて

奨学金は CDG 内にある Western Union で受け取るようにという指示でした（パリ等の支店でも可能とのことですが、過去の報告書を読むと早めに受け取った方が良さそうです）。CDG の Western Union は、RER の乗り場の近くのオレンジ色のブースです。受け取りはスムーズで、ブルシエの番号や滞在先のホテルの住所などを記入し、10 分程度の手続きだったと思います。

手配していただいたホテルに宿泊し、翌日は日本から来ているスタジエールの皆さんとリヨン駅に向かいました。電車を乗り継ぎブザンソンに到着し、トラムでホテルまで向かいます。到着したのは日曜日の午後でした。ブザンソンは日曜休みの店が多く、スーパーも午前中のみ営業なので買い出しに苦労しました。最終的にはイスタンブール系のスーパーが営業しているのを見つけ、買い物をすることができましたが、到着後買い物ができなかったとしても少しは凌げるよう、飲食物を日本から用意していくと焦らなくて良いかもしれません。

滞在先は Zenitude Hôtel - Résidences La City で、スタージュを受ける CLA の建物からは徒歩 5 分ほどです。トラムの駅もすぐですし、モノプリ等がある中心街にも徒歩 15 分ほどで行くことができます。部屋は十分に広く、快適に過ごすことができます。冷凍庫付きの冷蔵庫、電子レンジ、調理器具、ドライヤーなど、一通り揃っています。フロントには基本的に夜間以外人がいるので、質問や要望があればすぐに対応してもらえました。



Zenitude Hôtel - Résidences La Cityの様子

## 授業について

### 構成・クラスなど

授業は、Parcours (30 時間) と Module (10 時間)、Module libre (10 時間) から構成されます。このうち Parcours と Module は先述の通り出発前 (4 月ごろ) に選択する必要があり、Module libre は当該の授業日の前日に選択します。私は Parcours には *Innover avec le numérique* を、Module に *Motiver les adolescents* を選択しました。Parcours として選択した授業は 2 週間毎日受講するので、この授業のメンバーで授業を受ける時間が長いです。20 名ほどのクラスで、私ともう一人の日本人スタジエールの他は、トルコ、コートジボワール、ウガンダ、台湾、エジプト、パレスチナなど、多様な国籍のスタジエールがいました。ほぼ毎日顔を合わせるので、数日もすれば自然と打ち解けることができました。授業日の昼食に関しては、1 週目は食堂がバカンスのため開いていなかったもので、ホテルに戻って食事をしていました。昼休みは比較的長いですし、ホテルは校舎からすぐのため、時間に余裕があります。

以下は Parcours と Module の授業内容の報告です。

### **Parcours : Intégrer l'IA dans l'apprentissage du français – M. Adam DUPERRON**

Adam 先生の授業では、IT の歴史から始まり、Chat GPT を授業に利用する方法などを教えていただきました。プロンプトの書き方から丁寧に教えていただき、授業の資料を作成する上でもすぐに使うことができそうだと思います。

### **Parcours : Introduire le jeu dans ses enseignements – M<sup>me</sup> Vanessa PARISOT**

Vanessa 先生の授業では実際にいろいろなアクティビティを行いました。最初に行ったのは、クラスを 2 つのグループに分け、各グループで「料理上手な人のランキング」をつけるというものでした。制限時間が設けられ、グループ内でランキングの基準をどうするかなど相談し、順位をつけます。その後 2 つのグループが向かい合わせになり、順番に自己紹介をかねてその順位になった理由を説明します。先生はクラスメイトの名前を覚えるのはとても大事なことだとし、発言するごとにスタジエールの名前をみんなで繰り返し呼びました。そのため Vanessa 先生は初日の初めの 1 時間でクラス全員の名前を覚えてくださいました。

し、私たちが翌日から Bonjour, ~!と名前をつけて挨拶し合うようになり、ぐっと距離が縮まった気がします。

### **Parcours : Mobiliser des outils numériques au service de la formation – M<sup>me</sup> Vanessa PARISOT**

2週目からはフランス語学習に利用できるアプリケーションをたくさん教えていただきました。最終日の授業ではグループになり、授業で紹介されたアプリや教材を使ってどのように授業を行うかを発表しました。この時紹介していただいたサイトやアプリは授業で取り入れたいと思いました。ただ一方で、フランス語の文法知識がある程度身につけていることが前提であるアプリも多く、文法事項を一通りマスターしているクラスでないと取り入れづらいとも感じました。

### **Module : Motiver les adolescents – M<sup>me</sup> Vanessa PARISOT**

Motiver les adolescents の授業担当も Vanessa 先生でした。私が教えているのは大学の1~4年生なので、adolescent に入るのだろうかと思いつつも選択しましたが、興味を惹きつける・動機づけをするという点は共通しており、有意義であったと思います。思春期の学習者に興味を持ってもらうための工夫をお話しされ、若者に人気があるフランスの音楽や Youtuber なども紹介していただきました。

Module libre は、シャンソンやフランスの行事といった文化的な授業や、若者言葉など言語教育的な授業のほか、ブザンソンの噴水や大聖堂を訪れ先生が歴史を説明してくださるエクスカッションを兼ねたような授業もありました。

CLA のスタッフ、先生方は本当に気さくで親切で熱意があり、とても感謝しています。

### **余暇について**

平日はほとんど毎日 8 時半から 17 時半まで授業があるので、かなりハードです。宿題は出なかったので、授業後はスーパーへ買い出しに行ったり、体を休めたりすることができました。よく食べよく眠り、疲れを溜めないことが大切だと思います。CLA 主催のアクティビティがほとんど毎日開催され、カラオケ大会やピクニックなど無料のものから、休日のバス旅行もあります。

### **ブザンソン散策**

授業が早く終わった金曜日の午後はブザンソンの街を散策しました。Citadelle は途中まで無料で入れます。Citadelle の敷地内にあるバーは見晴らしがよく、とても気持ちが良かったです（人気で並ぶので開店時間に行くのがおすすめです）。Maison natale de Victor Hugo や Musée du temps、Musée des Beaux-Arts et d'Archéologie de Besançon などは CLA の登録証明書があれば無料で入れるので、行ってみるといいと思います。

### **近郊の町**

土日や祝日は CLA 主催のアクティビティに参加し、バスに乗って近郊の都市に出かけました。この小旅行は比較的安価に参加でき、埋まるのが早い（語学学校の学生も申し込むため）ので、早めに申し込みをした方が良いでしょう。私は最初の週末の土曜日に Haut-Doubs と、



翌週の祝日にローザンヌ行きに参加しました。

Haut-Doubs 行きのバスはかなり揺れる道を通るので、乗り物酔いをしやすい方は酔い止めを持っていくと良いです。チーズフォンデュとワインを楽しむ（とても美味しかったです）、お城を訪ねました。例年とても冷えるそうですが、今年は暑く、帽子やサングラスがあると良いです。

日曜日はストラスブールのバス旅行に参加したかったのですが、早々に満員になってしまったので、TER に乗って 20 分ほどのアルボワという町に行きました。アルボワはジュラワインの産地です。駅を降りるとあまりに何もなくて人もいないのでびっくりしましたが、20 分ほど歩くと中心地に着きます。アルボワで一番古いというワイナリーを訪れ、いきなりでしたがカーブを見たいという案内していただき、詳しいワインの説明とともに試飲もたくさんさせていただきました。レストランで郷土料理を、人気のパティスリー（イルサンジェー）でスイーツをいただき、たくさんのワインを買い込み、半日程度の小旅行を楽しむことができました。

2 週目の木曜日は祝日で、ローザンヌに遊びに行きました。とても綺麗な街で、大聖堂のステンドグラスの薔薇窓が美しかったです。ここでもチーズフォンデュをいただいたり、レマン湖で泳いだり、素敵な夏の 1 日を過ごしました。



Haut Doubs

Arbois

## 最後に

この夏季スタージュでは、ブザンソンの豊かな自然と美しい街で、フランス語教育に携わる世界中の熱心なスタジエールの仲間とともに、素晴らしい先生方から多くのことを学ぶことができました。この 2 週間のスタージュは教員を続ける上でかけがえのない財産になると思います。また研究のバックグラウンドが違うため、スタージュがなければ会うことがなかったかもしれない日本からのスタジエールと出会い、教育や授業に関する話をできたことも嬉しかったです。今回の学びを教育現場に活かすべく、今後も研鑽を重ねていきたいと思います。

最後になりましたが、貴重な機会を与えてくださった日本フランス語教育学会、日本フランス語フランス文学会、在日フランス大使館、キャンパス・フランス、国内スタージュ運営委員会の皆さま、CLA の講師およびスタッフの皆さま、ともに学んだスタジエールに、心より御礼申し上げます。

**Rapport de stage d'été 2024**  
**Centre de linguistique appliquée (CLA)**

Kuriko Kajiwara

Du 5 au 16 août 2024, j'ai participé à une formation pour enseignants de français organisée par le Centre de linguistique appliquée (CLA) de l'Université de Franche-Comté à Besançon. Ce rapport présente l'hébergement, le déroulement des cours et mon expérience à Besançon.

### **I. Hébergement et vie quotidienne**

J'ai séjourné à la résidence Zenitude Hôtel - Résidences La City, située à proximité du CLA. L'appartement était bien équipé avec une cuisine, ce qui m'a permis de vivre confortablement pendant ces deux semaines. Le centre-ville et les arrêts de tram étaient également accessibles à pied.

### **II. Cours**

Les cours étaient divisés en trois parties : 1. Parcours (30 heures) ; 2. Module (10 heures) ; 3. Module libre (10 heures). J'ai suivi le parcours *Innover avec le numérique* sous la direction de M. Adam Duperron et M<sup>me</sup> Vanessa Parisot. J'ai également suivi le module *Motiver les adolescents*, animé par M<sup>me</sup> Parisot, qui a partagé des stratégies pour captiver et motiver les jeunes apprenants.

### **III. Activités sociales et culturelles**

Le CLA organisait des activités après les cours, comme des soirées karaoké et des excursions le week-end. J'ai participé à deux voyages dans le Haut-Doubs et à Lausanne organisés par le CLA. J'ai profité de mon temps libre pour visiter des musées comme la maison natale de Victor Hugo, le Musée du Temps et le Musée des Beaux-Arts et d'Archéologie de Besançon, où l'entrée était gratuite pour les stagiaires du CLA.

### **IV. Conclusion et remerciements**

Ce stage m'a permis de renforcer mes compétences pédagogiques tout en découvrant la culture locale. Je suis reconnaissante pour l'accueil chaleureux des professeurs du CLA, notamment M<sup>me</sup> Parisot et M. Duperron, ainsi que de mes collègues stagiaires venus du monde entier. Enfin, je tiens à exprimer ma gratitude à toutes les organisations et personnes qui ont rendu cette expérience possible.

## 2024年8月ブザンソン CLA 夏季スタージュ報告

小山美穂

### はじめに

2024年8月5日から16日まで、フランス、ブザンソンのフランシュ=コンテ大学附属応用言語センター(CLA)主催のフランス語教員研修に参加しました。ここでは、研修の内容やブザンソンまでの移動、ブザンソンでの生活などについて報告します。これからスタージュに参加される方々の参考になれば幸いです。

### 1. ブザンソンへの移動

研修は8月5日(月)午前中開始であったため、前日の8月4日(日)にはブザンソンに移動する必要がありました。8月3日(土)の夕方にパリに到着し、Campus Franceが手配してくださったホテル(14区にあり、やや遠い)に前泊しました。翌日の朝に同じく前泊していた他の研修生と合流し、リヨン駅に向かいました。TGVは研修生全員が11時18分発のものが手配されていました。ブザンソン-フランシュ=コンテ駅で乗り換え、ヴィエット駅まではスムーズに移動できました。ヴィエット駅から宿泊施設であるZenitudeまでは事前に連絡があったため、その通りにトラムに載って移動しました。ブザンソンへの到着日は日曜で、昨年度の報告レポートでは19時までMonoprixが開いていたとありましたが、今年は午前中しか開いておらず、なんとか見つけた小さなスーパーで食料品を買いました。

### 2. 研修について

今年度より仕組みが変わったようでした。2種類のコースから1つを選択し、コースごとに組まれている授業を受講します。15時半から17時半の時間にはフォーラムが設置され、研修生は全部で5つフォーラムを受講しなければなりません。2週目の午前中は3つのモジュールの中から事前に選んだものを受講することになっていました。コースやモジュールは既に決定しており、到着してから選べたのはフォーラムのみでした。事前に希望を送りましたが、その際は昨年度の仕組みをもとにしたものだったので、受講したコースは自分が期待していたものとは異なりました。朝8時半から17時半まで授業が続くのは大変ではありましたが、フランス語とフランス語教授法にどっぷり浸かることができ、楽しく充実した毎日でした。ここでは印象に残っている授業、モジュールを1つずつ紹介します。

私が選択した(ことになっていた)コースは「Enrichir ses pratiques de classe」でした。もう1つはAIに関するコースで、授業のスタイルも全く異なっていたようです。

#### ①コースの授業

・ Introduire des activités ludiques et créatives en classe (担当講師：M<sup>me</sup> Francine Beissel 氏)

「フランス語で遊ぼう！」といった感じの授業でした。1回の授業の中で、様々なレベルの活動を複数学び、実際に研修生たちが生徒として行いました。Beissel氏が紹介してくださった活動は、学習者間のコミュニケーションを促すものが多く、主体的に授業に参加せざるを得ないものでした。私はBeissel氏があまり発音や文法の間違いを指摘しなかったことに驚きました。もちろん研修生はフランス語を教える教員であり、もともと間違いが少ないということもありますが、まずはフランス語を使ってみることが重要なのだと気付かされました。またこの授業だけでなく、全体を通して感じたことですが、フランス語を使って遊べるくらいの単語数が学習者に必要であり、退屈になりがちなインプットの部分をどのように授業で扱えばいいのかを知りたかったです。私自身は教員でありながら人前でフランス語を話すのが好きではなく、この授業はとても大変でしたが、その分多くのことを学習できました。

#### ②モジュール

・ Enseigner la grammaire autrement (担当講師：M<sup>me</sup> Fatiha Harrab 氏)

この授業は絶対に受講したかったものでした。文法は外国語を学ぶ際には、必須であると思っていますが、大半の生徒は文法に苦手意識を持っていると感じています。私は文法が好きなので、苦手意識がある生徒のことを理解しづらいので、文法をどうやって教えるかというこの授業はとても実用的なものでした。

授業内では、実用的ないくつかのアクティビティを教えてもらいました。私のお気に入りには他言語で書かれた文章を見て、いくつかの質問に答えるというアクティビティです。グループで行ったのですが、自分が持っているフランス語や他の言語をもとに書かれている内容を推測します。最後に1グループが代表で発表し、別の解釈があればどんどん意見を出しあうというものでした。このアクティビティは、中高生を対象に行われている言語学オリンピックの問題に近く、パズルや謎解きのように扱うこ

とができるものでした。言語の知識が少なくても、他の知識を使って想像し解くことができるので、生徒も楽しく活動できるのではないかと思います。

### 3. ブザンソンでの生活

ブザンソンでの生活は非常に快適でした。今年は気温が高く、長袖を着るタイミングはありませんでした。

研修が市内の大学ではなく CLA で行われたため、Zenitude から近く、お昼も毎回 Zenitude に戻って自室で取ることができました。一度昼休みに Zenitude に戻り、昼食を取って再び部屋から出ようとしたところ、鍵が開かないというトラブルに遭いました。入居時にもらった資料の中に受付の連絡先はなく、ホテルとは違い内線が使える電話もないため、同じ授業を受けている日本人研修生に連絡し、受付に伝えてもらいました。たまたま事前に研修生同士で連絡先を交換していて本当に良かったです。日本人研修生とは連絡先を事前に(ブザンソンで合流してからでも)交換しておくといいと思います。結局午後の授業は出席できませんでしたが、CLA には Zenitude の方から連絡をしてくれていました。私からも CLA 欠席のメールを送りましたが、サポート体制が整っており、大変助かりました。

### 4. 研修後と帰国

過去の報告レポートに研修後のことがあまり書いておらず、個人的に事前に知りたかったので書いておこうと思います。

研修は8月16日(金)までで、翌日の8月17日(土)にパリへ戻る TGV を Campus France に手配していただきました。特に希望がなければ研修終了の翌日にパリに戻るようになるようです。帰国についてですが、私は仕事の関係で、8月18日(日)のお昼ごろに出発し、8月19日(月)の午前中に帰国しました。他の研修生の皆さんは、研修後もパリにしばらく滞在されたようです。ですので、ブザンソンからパリまでは同じ TGV で移動し、パリで解散という形になりました。

### 5. 最後に

この夏季スタージュでは、FLE のメソッドやテクニックだけでなく、デジタル資料の活用法など多くのことを学ぶことができました。また様々な国の研修生とフランス語を使ってコミュニケーションを取ることができたことは、改めて外国語で他者とコミュニケーションを取ることの喜びを感じ、自分自身のフランス語の学習のモチベー

ションにもなりました。今回学んだことを、日々の授業の中で積極的に取り入れていきたいと思います。

最後になりましたが、今回の夏季スタージュの機会を与えてくださったフランス語教育学会、フランス語フランス文学会、国内スタージュ運営委員の皆様、在日フランス大使館 ーとりわけ文化部の萩尾さまー、キャンパス・フランス、CLA 講師およびスタッフの皆様がこの場を借りて御礼申し上げます。そして今回フランスへの留学経験がなかった私が安心して研修に参加し、多くの実りを得ることができたのは、ブザンソンでともに過ごした日本人研修生 4 人のおかげ以外にありません。併せて御礼を申し上げます。



CLA の前を流れるドゥー川

Rapport de stage du mois d'août 2024  
à l'Université de Franche-Comté  
et au Centre de Linguistique Appliquée de Besançon

Miho Koyama

## Résumé

Le stage d'été du FLE en France a eu lieu du 5 août au 16 août 2024 au sein du Centre de linguistique appliquée à Besançon. Ce stage permet aux stagiaires de suivre des cours pratiques et innovants pour enseigner le français. On doit choisir 1 programme, 1 module et 5 forums. Les cours commencent à 8h30 et finissent à 17h30.

J'ai choisi un programme qui s'appelle <enrichir ses pratiques de classe>. Le but de ce programme était d'utiliser le français de manière ludique et dynamique. Selon cette méthode il est important d'utiliser son corps dynamiquement et de faire communiquer les apprenants entre eux. Les deux professeurs ne corrigeaient pas strictement les fautes de grammaire et de prononciation. En résumé, l'accent était mis sur l'utilisation du français. Je me suis aperçue de l'importance de mettre en place une atmosphère dans laquelle les apprenants peuvent parler français sans peur. De plus, j'ai choisi le module intitulé <enseigner la grammaire autrement>. Dans ce module, on a pu apprendre diverses techniques pédagogiques très utiles. Globalement, il y avait beaucoup de cours actifs dans lesquels les apprenants participaient spontanément. Certaines des techniques que j'ai apprises en France seront sans doute difficiles à adopter dans le contexte des cours au Japon, mais je compte tenter de les appliquer le plus possible.

Ce stage m'a donné des occasions précieuses et des expériences très enrichissantes.

Finalement, je remercie sincèrement l'Ambassade de France au Japon, la Société Japonaise de Langue et Littérature Françaises et la Société Japonaise de Didactique du Français qui m'ont donné cette merveilleuse opportunité.

## 2024年ブザンソン CLA 夏季スタージュ報告書

宮崎 茜

本文書は、2024年8月5日から16日にかけて、ブザンソンのフランシュ=コンテ大学付属応用言語センター（Centre de linguistique appliquée, 以下 CLA）で開催されたフランス語教員研修に参加したことを報告するものである。

### I. 研修内容

#### 【概要】

研修はすべて CLA 施設内（6 Rue Gabriel Plançon）で行われた。研修生はモジュール（必修授業のようなもの）40時間、そして1コマ2時間のフォーラム（選択授業）5つの10時間を合わせた、計50時間分を受講する必要があった。

モジュールは1つ10時間の講座4つで構成され、研修生は、講座3つが含まれているコースを1つ、そして複数の選択肢から選べる自由モジュールと呼ばれる講座を1つ、渡仏前に選ぶことになっていた。もともとは「Enseigner aux enfants」、「Enseigner dans les filières bilingues」、「Enrichir ses pratiques de classe」、「Innover avec le numérique」という4つのコースが予定されていたようだが、人数の関係からか直前になって、後者2つから選ぶようメールで指示があった。自由モジュールも最終的には「Enseigner la grammaire autrement」、「Motiver les adolescents」、「Développer les compétences interculturelles」の3つから選ぶこととなった。フォーラムは開催前日に用紙が回ってくるので、教室で名前を書いて申し込む。報告者が受講したものは以下の通り。

モジュール	コース：Enrichir ses pratiques de classe
	内訳
	・ Enseigner avec le théâtre, le mouvement et la gestualité
	・ Introduire des activités ludiques et créatives en classe
	・ Dynamiser les pratiques de l'écrit
	選択：Enseigner la grammaire autrement
フォーラム	・ Découverte de la médiathèque et de ses ressources numériques
	・ Le français relâché, populaire, familier et argotique
	・ Cultures et société françaises, évolution des vingt dernières années
	・ Un an en France
	・ Découvrir la chanson française



## 【モジュールについて】

### ① Enseigner avec le théâtre, le mouvement et la gestualité (Mme Lydia Diagana)

言語に対する身体的アプローチが重視され、演劇・動作・ジェスチャーを使って指導するための多くのアクティビティが提案された。そのためには机を教室の隅に寄せ、身体も空間もフル活用することが求められた。例えばオノマトペを使ったアクティビティでは、研修生たちが立って輪になってオノマトペを言っていく、次はそれに動作をつけてみる、というように、少しずつ言葉と動作の確認が進められた。言葉（音）だけを学ぶのではなく、特徴的な動作についてフランス語で説明することで語彙や言い回しを増やしたり、文化の違いを確認することに焦点を当てたりと、初心者から上級者まで汎用性の高いアクティビティだと感じた。他にも歩き方のゲームでは、どのように歩くか指示の書かれた小さな紙が配布され（« marcher à petits pas »など）、まず語彙や言い回しを確認をした。その後は人が読み上げる指示に合わせて歩き回ったり、すれ違う人と紙を交換しながら歩き回ったり、一人ずつ歩いてどんな指示が書かれていたか当てる、など、一枚の紙を何度も使う工夫を学んだ。

文学作品では、ル・クレジオの『物質的恍惚』*L'extase matérielle*の抜粋を使ったアクティビティが紹介された。疑問文が羅列されている箇所の抜粋（すべて3人称）を使って、疑問形の作り方や意味の確認した後、人称を変えて（2人称）を作ってみる。そしてペアになって、各自選んでおいた質問の答えを確認し合う。最後は全員の前で質問の答えを使って他己紹介する時間が設けられた。演劇作品のうち、モリエールの『町人貴族』*Le Bourgeois gentilhomme*を使う回では、時代背景、演劇ジャンルや韻文・散文などの説明がなされた後、実際に上演ビデオの抜粋を見た。台詞の一節が書かれた小さな紙も配られ（ジュールダン氏が哲学者に母音を習う場面）、その読み方や意味の確認をした後、台詞の順に並んでみたり、暗記して演じてみたりと、動作付きでフランス語を繰り返すためのアイデアが多く提案された。いずれにしても、単に演劇作品を紹介するのではなく、フランス語に馴染むために動作付きでその一部を実践するという方法は新鮮で、反復練習として有用だと感じた。

### ② Introduire des activités ludiques et créatives en classe (Mme Francine Beissel)

創造的な活動、つまり遊びを取り入れることによって授業を活性化させるための具体的な方法が示された。学習者間のコミュニケーションを促進させる簡単なゲームや、単語から簡単な文章に至るまで、実践を通してフランス語に馴染んでゆくための様々なゲームを、研修生たちも体験しながら学んでいった。実際にゲームを行う前後に、それにふさわしい学習者のレベル（A1～C1）や応用法などが詳しく説明されたため、このモジュール自体もメリハリのある授業空間となっていた。教室内で机は使わず、立って身体を動かすか、輪になって座り、学習者同士が顔を合わせられる形が取られたため、フランス語に馴染むために演劇を使ったモジュール①に通じるところも多かった。

ゲームのごく一部を紹介しておく、例えば自己紹介にしても、2人組になったペアの相手について紹介する、あるいは自分のことを話す際ひとつだけ嘘を入れてそれがどれか当

ててもら、など学習者同士が自然とやりとりできるよう工夫されたものであった。他にも、配られた写真（ポール・アルマシー Paul Almásy の作品）を皆に見せないまま言葉で描写して想像させたり、グループ毎に新しい発明品を考えてプレゼンしたりと、クラス全体でフランス語を学んでいく一体感が生まれるアクティビティが多かった。一方向的な講義や単調なグループ作業にならないために遊戯性を取り入れるという点は、体験していても飽きることなく学習意欲が高まったので、日本でも簡単なものから実践してみたいと感じた。

### ③ Dynamiser les pratiques de l'écrit (Mme Francine Beissel)

上と同じ先生で、作文の授業の中にも創造性・遊戯性を取り入れ、かつそれを個人だけではなくペア・グループでも行い、成果をクラスで共有するまでが一連の流れとして目指されていた。学習者のレベルごとに使えるお題の説明や、参考となる書籍の紹介もあり、今後のために大変参考になった。例えば自己紹介の延長では、ある人物の写真を見てどんな人か想像して紹介文を書いたり、自分やクラスの誰かを野菜や果物など他のものに例えて描写する、など。適当な名詞と動詞を組み合わせて新しい職業や発明品（できるだけ突飛で面白いもの）を考え、その特徴を発表する言葉遊びのようなゲームもあり、教室が盛り上がった。

文学作品も積極的に取り入れられ、ペレックの『煙滅』*La disparition* に倣って「e」抜きで文章を作ったり、コクトーの詩の一部を変えて創造したりという作業も提案された。単語を変えたり、文章の一部を変えたり、学習者のレベルに合わせていかようにもアクティビティを作ることができる点が面白く、また文化紹介の良い機会にもなると感じた。他にも「別れの手紙」「旅行先からの手紙」（なるべくドラマチックなもの）などのテーマが与えられてグループで作成したり、適当な単語の羅列が与えられ（« café-pamplemousse-bicoque-biberon-musique-débarcadère »）、その順に単語を登場させる文章を作ったりと、ある程度フランス語のレベルが求められる作業も多かったが、体験するだけでも勉強になった。全文を書かせるのではなく一文ずつ担当させるなど、学習者のレベルに合わせて工夫ができることが繰り返し説明された。書かせ方を変えるだけで文学作品も仏作文の授業に使えるということは今後心に留めておきたい点だと感じた。

### ④ Enseigner la grammaire autrement (Mme Fatiha Harrab)

日本で文法の授業担当が多いこともあり、学ぶところの多いモジュールだった。文法は外国語を学ぶための最初の必須項目だと考えられてきたが、今日ではコミュニケーションのアプローチの重視もあって、教師は文法を単に規則として教えるのではなく、学習者が能動的にルールを発見できるよう導き、覚えやすくすることが求められているという趣旨のもと、様々な教育・学習方法が提案された。はじめに「文法 *grammaire*」という言葉自体の多義性や歴史変化について説明があった後、さまざまな具体例（教科書や資料）を見ながら、それが文法を演繹的に教えるものか、帰納的か、など方法論について考える時間が設けられた。指導状況に適した方法や教材を選択するために欠かせない視点であり参考になった。

教室内を能動的で活発な場にするためのツール（wooclapなどのサイト）や、質問や単語を書いて小さな紙を使う様々なアクティビティも紹介された。文法を発見させる具体的な方法例としては、実際に受講者にオランダ語やトルコ語の短いテキストが配られた。グループになって規則性などを頼りに単語の種類や意味を想像する作業はゲームのようでかなり楽しく、意味が分かる（通じる）喜びを感じながら文法を学べる方法は、コミュニケーションが重視されがちな今日においてかなり有用だと感じた。

### 【フォーラムについて】

#### ① Découverte de la médiathèque et de ses ressources numériques

初日のガイダンスで授業の申し込み方などの説明がされた後、IT ルームに移動しパソコンを使って CLA のサイトにログインする方法、利用できるコンテンツなどを確認した。その後図書館に移動し、利用方法や配架棚の説明があった。

#### ② Le français relâché, populaire, familier et argotique (Mme Laurence Consalvi)

口語フランス語とスラングに関する歴史、その使用域や意味、語彙変化のプロセスや具体例が紹介された。これらはフランス語全体の中でも、時間とともに更新され続ける言語的に活発な部分であり、社会状況や発言者のアイデンティティの変化にも連動する重要なものだという指摘が興味深く、まとめて学ぶ機会がなかった分野なので大変勉強になった。

#### ③ Cultures et société française, évolution des vingt dernières années (Mme Laurence Consalvi)

上と同じ先生の講座で、過去 20 年ほどにおいてフランスで起きた文化的・社会的変化について紹介された。パワーポイントやクイズを使って、法律、統計、各種地図、政治、環境、家族や教育など多岐にわたる項目が取り上げられ、受講者の出身国との違いについての議論も挟まれながら、フランス社会に関する知識を深められた。

#### ④ Un an en France (M. Jean-Marie Frisa)

フランスにおいて、1 月から 12 月までどのような社会的・文化的イベントがあるのかを、月ごとに紹介・解説してもらえる講座だった。受講者の出身国との違いについても適宜質問され、異文化交流もできる良い機会だった。日本でも、季節ごとのイベントと比べるなど、授業に取り入れやすい内容だと感じた。

#### ⑤ Découvrir la chanson française (Mme Francine Beissel)

フランス語で歌われる最近の歌手・楽曲を紹介してもらえる講座だった。いわゆる有名なシャンソンではなく、近年の時事問題を提議し、それに関して学習者と議論できるような、フランスの今の現実に目を向けるための歌手・楽曲が紹介された。日本ではまだ馴染みのない歌手も多く、教師として今流行している音楽にも注目することの重要性を痛感した。

## II. 生活その他

### ① 渡仏について

研修プログラム自体は8月5日から16日までだったが、日本人研修生は基本的にその前後の4日と17日が移動日となった。報告者はパリでの前泊を希望したため、3日に渡仏・到着した。ホテルへ向かう前に、CDG空港のWestern Unionで奨学金を受け取った。空港には両替所が多くあるが、RERのB線やTGVの駅のすぐそばにある支店だったので場所に注意。その後はキャンパスフランスに手配していただいた14区Porte d'Orleans駅近くのHôtel Terminusで過ごした。翌日にはホテルの朝食会場で他の日本人研修生と会うことができ、その後の移動を共にした。TGVはLyon駅発で電車だと乗り換えが必要だったので、スーツケースが重いこともあり全員でUberを手配して駅に向かった。

今年は予約されたTGVの出発まで余裕があったためか、ブザンソンには昼過ぎに到着した。日曜日の午後にはMonoprixなどスーパーが軒並み閉まっていたので注意。さしあたりの買い出しは、トラムのRépublique駅近くにあるMarché d'Istanbulですることができた。

気候も毎年かなり違うようだが、今年は日本ほどではないものの暑い日が続いた。念のため長袖も持っていたが一切使わず（その後滞在したパリでは使った）、日本から持参した水筒や扇子がとても役に立った。服装の準備が難しいかもしれないが、Monoprix近くのパッサージュ（Les Passages Pasteur）に手頃な服屋も多いのであまり心配しなくてよいと思う。

### ② 宿泊施設について

ブザンソンの宿泊先は例年通りZenitudeで、簡易キッチン付きのアパートホテルであった。食器や調理器具、電気ポット、扇風機、ドライヤー、タオル類など必要なものは全て揃っている。洗濯が割高だったため、報告者は洗剤を持参して部屋で手洗した。クローゼットにはハンガーもあるが、据付タイプなので、自分で洗濯する人は百均にあるような旅行用の折り畳みハンガーをいくつか持参すると良い。

日々の食事は、スーパー（主にMonoprixを利用した）で買ったり自炊したり、あるいは近くの学食を利用した。Zenitudeの隣にあるIbisホテルに入っているビストロRégentでは、Zenitudeの鍵を見せると割引になったのでおすすめ。宿泊先から街の中心部までは徒歩で移動可能だが、その日の暑さや疲れ具合によってはトラムを利用した。トラムの各ホームにある券売機でカード（Ginko, PASS Liberté）が発行でき、発行後は券売機で適宜チャージして利用すればよい。

### ③ 文化活動・余暇について

CLAでは余暇のための文化プログラムも多く用意されていた。報告者はそのうちドゥー川クルーズ、Haut-Doubs (Château de Joux) への遠足、ローザンヌへの小旅行に参加した。クルーズは城塞都市であるブザンソンの全体像と運河の仕組みが分かり楽しいので大変おすすめ。Haut-Doubsでは例年通りチーズフォンデュも楽しめた。今年は研修期間中に祝日が

あったためか文化イベントが多く、ローザンヌのラマン湖で泳ぐなど、ひと時バカンスのような時間が過ごせた。ただし遠方に出かけるときの移動は全て Zenitude 前から乗る大型バスの移動でかなり揺れたため、念のために酔い止めの薬などを持って行っておくと安心。

ブザンソン自体の散策も大変楽しく、CLA の登録証を提示すると多くの美術館が無料になるため充実した滞在になった。クールベの晩年の大作があるブザンソン美術館 (Musée des Beaux-Arts et Archéologie Besançon)、時計美術館 (Musée du Temps)、隈研吾の設計による芸術センター (Cité des Arts, Fonds Régional d'Art Contemporain)、ユゴールの生家 (Maison Victor Hugo) が無料となった。他にも公立図書館では、オリンピック期間だったこともあって無料の展示があった。中でもユゴールの家の近くは、リュミエール兄弟の生家跡 (記念プレート) があったり、そばのサン・ジャン大聖堂 (Cathédrale Saint-Jean) にスタンダール『赤と黒』のモデルといわれる像があたりと充実しているのでぜひおすすめしたい。大聖堂を背にそのまま城砦 (Citadel) に上って、公園の芝生で寝転んだり、街を見渡せるカフェ (Le Qinze) のルーフトッパーで過ごした時間もすばらしかった (大変混むので開店時間に行くのがおすすめ)。

### III. おわりに

今回 CLA の研修に参加して、それぞれの講座の内容が充実しており大変勉強になったのはもちろんのことだが、講師陣、スタッフ、そして各国からの研修生と過ごした時間自体が楽しく、教わることが多いものであった。研修生といってもほとんどネイティブであったり、すでにベテラン教師であったりと、フランス語のレベルも教師としての経験値も高い人材が集まっていた。彼らをまとめる講師陣のあたたかい人柄や、自分の経験を踏まえて質疑する研修生の熱心な姿勢は、自分の授業運営だけでなく、他の教員・スタッフとの関わり方ひとつとっても参考にしたいものだった。また授業外でもクラスのメンバーでピクニックやアペロを行い、報告者の部屋で一緒に料理までしたことは、良い思い出となったばかりでなく、フランス語学習自体へのモチベーションにもなった。外国語学習が何よりもまず、新しい世界を開けることができる楽しい手段であることを改めて心に留めて、学生に向き合っていきたいと感じた。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった日本フランス語フランス文学会、日本フランス語教育学会、そして在日フランス大使館関係者の皆様に改めてお礼申し上げる。そして苦楽をともにしてくれた日本人研修生の4人にも、心より感謝したい。

## **Rapport sur le stage d'été en 2024 au Centre de Linguistique Appliquée de Besançon (CLA)**

Akane MIYAZAKI

### **Résumé**

Du 5 au 16 août 2024, le stage d'été pour professeurs de français s'est déroulé au Centre de linguistique appliquée (CLA) rattaché à l'université Franche-Comté de Besançon. La formation s'est entièrement déroulée dans les locaux du CLA (6 rue Gabriel Plançon). Les stagiaires devaient suivre 40 heures de modules en plus de 10 heures pour cinq forums de deux heures chacun, soit un total de 50 heures. Les modules consistaient en quatre cours de dix heures chacun. Avant d'arriver en France, les stagiaires devaient également choisir un parcours qui comprenait trois leçons et un cours appelé « module libre », avec de multiples options possibles. Voici les modules auxquels j'ai participé :

### **Modules**

Parcours 3 : Enrichir ses pratiques de classe

- Enseigner avec le théâtre, le mouvement et la gestualité (Mme Lydia Diagana)
- Introduire des activités ludiques et créatives en classe (Mme Francine Beissel)
- Dynamiser les pratiques de l'écrit (Mme Francine Beissel)

Module libre : Enseigner la grammaire autrement (Mme Fatiha Harrab)

### **Forums**

- Découverte de la médiathèque et de ses ressources numériques
- Le français relâché, populaire, familier et argotique (Mme Laurence Consalvi)
- Cultures et société françaises, évolution des vingt dernières années (Mme Laurence Consalvi)
- Un an en France (M. Jean-Marie Frisa)
- Découvrir la chanson française (Mme Francine Beissel)

Dans les modules, les stagiaires ont découvert une variété d'activités pour animer la classe et motiver les apprenants. Les forums ont également été très enrichissants et ont donné un large aperçu de la culture française contemporaine. Le temps passé avec des formateurs chaleureux et des stagiaires enthousiastes issus de différents pays a également été agréable et instructif. Je tiens à remercier une fois de plus l'ambassade de France au Japon, la Société japonaise de langue et littérature françaises et la Société japonaise de didactique du français de nous avoir offert une telle opportunité.

## ブザンソンでのフランス語教員研修についての報告

横田 悠矢

2024年8月5日（月）から8月16日（金）まで、報告者はフランシュ＝コンテ大学応用言語センター Centre de linguistique appliquée de l'Université de Franche-Comté（CLA）で行われた、フランス語教員研修に参加した。まずは今回、こうした貴重な機会を与えてくださった在日フランス大使館、日本フランス語フランス文学会および日本フランス語教育学会に感謝を申し上げたい。

### 1. 事前準備について

まず、研修期間として7月下旬または8月上旬の選択肢があり、報告者は後者を選んだ。そのうえで、時間割を決めるにあたり、下記の2つのコース *parcours* および3つのモジュール *module* から、それぞれひとつを事前に選択した。報告者はコースから「*Innover avec le numérique*」を、モジュールから「*Enseigner la grammaire autrement*」を希望した。

コース： *Enrichir ses pratiques de classe*

*Innover avec le numérique*

モジュール： *Motiver les adolescents*

*Développer les compétences interculturelles*

*Enseigner la grammaire autrement*

現地では、シャルル・ド・ゴール空港到着後パリにて1泊し、同じく前泊していた日本からの他の参加者とともに、日曜午前にブザンソンへ移動した。なお、奨学金は Western Union を通じて送金された。フランス到着時にはすでに21時近く、空港にある窓口は閉まっていたため、ブザンソン到着後に Western Union 取り扱い店舗を見つけて受け取りを行った。

また、宿泊施設となったアパートメントホテル Zenitude は CLA から徒歩数分、中心街から徒歩約 10 分の距離にあり、非常に便利だった。食器やグラス、料理器具、洗剤、シャンプー、ドライヤー等、必要なものがひと通り揃っていたため、生活面での問題もとくになく、研修に集中するための理想的な環境が整っていたと言える。



ブザンソンの街並みを対岸に



研修中滞在した Zenitude の部屋

## 2. コースについて

### 2 - 1. AI の活用

研修は、平日の午前中に約 3 時間、休憩をはさんで午後約 2 時間の授業で構成されていた。上述のコースに応じて、2 週間の日程のうち 1 週目の午前と午後、および 2 週目の午後の内容が決定されるため、コースへの関心が大きく反映されたプログラムとなっていた。

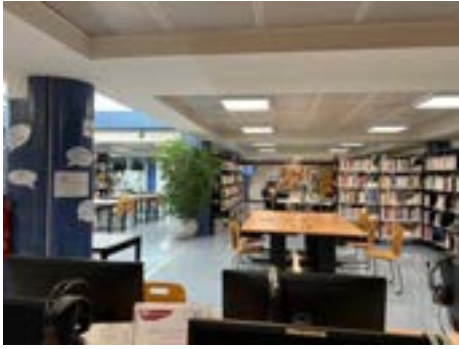
報告者が選択したコース « Innover avec le numérique » は、教育活動のなかに（生成）AI を組み込み、効果的に授業や評価を行うための知識・技術を習得することを目的としていた。具体的には、まず AI 発展の歴史を振り返りつつ、いくつかの誤解を解くことから始まった。「AI は教師に取って代わるか」「学生は考える代わりに AI を使用しているのか」などの一般的な疑問をもとに、「AI は教育の補助ツールであり、教師の役割を奪うものではない」「多くの教師が懸念するほどには、学生は AI を学習の全過程で使用しているわけではない」といった認識が共有された。



続いて、AIの実践的な使用例が紹介された。ChatGPTでの文章生成や、Midjourneyでの画像生成など、生成AIはテキスト教材や視覚的な資料づくりに幅広く利用できる。ただし、生成AIに応じてその機能や特徴が異なっており、この点を確認するため、授業では複数のAI（ChatGPT、Gemini、Microsoft Copilot、Perplexity AI等）に対して同一のプロンプト——フランス語の授業で使用するための対話文生成——を与え、結果を比較した。プロンプトの書き方を含むこうした練習は、生成AIとの擬似的な会話や、学生にフランス語でプロンプトを書かせるアクティビティ等、授業における発展的なAI利用の可能性について考える機会ともなった。

## 2 - 2. デジタルゲームの活用

生成AI以外にも、フランス語学習に役立つアプリケーション、プラットフォームは数多くある。コースの後半では、授業のなかにいかにゲーム的な要素を取り入れることができるかをテーマに、いくつかの実践例を確認した。歌の歌詞の聞き取り練習を行うことができるLyricsTrainingや、事前に作成したクイズを教室で簡単に出题し、かつ回答を集計できるPlickersなど、すぐに授業に導入できるものも多かった。とくにPlickersについては、学生にスマートフォンなど端末の操作を要求するクイズ/プレゼンテーションアプリが多いなかで(Kahoot!、Quizlet、Wooclap等)、教師のみオンライン環境があればよく、学生の注意を問題に集中させられる点で優れているという印象を受けた。また、Les Zexperts FLEはフランス語の授業で利用可能な資料やアクティビティを数多く提供しており、報告者も今後の導入を検討している。



豊富な資料を揃えるメディアテック



世界遺産に登録されている城塞から

### 3. モジュールについて

研修2週目の午前は、上述のモジュールに応じて授業が行われた。

報告者が選択したモジュール « Enseigner la grammaire autrement » では、まずフランス語教授法のなかで文法の占める位置がいかに変化してきたかを簡単に振り返った。伝統的な文法教育では、教師が規則を説明し、学習者が例文や問題を通じて練習を繰り返す「演繹的アプローチ」が一般的だったが、近年は「帰納的アプローチ」に注目が集まっている。後者において、学習者は一定の文脈の中で言語を観察したうえで、みずから規則を見出すことを求められ、この積極的な発見作業を通して、文法がより効果的に習得されるという。以上のような前提のもと、授業では実際に複数の語学教科書を比較しながら、文法が——規則を明示的に示すか否かを問わず——学習プロセスの中に多様な仕方で組み込まれうることを確認した。

続いて、Violette Petitmengin et Clémence Fafa, *La Grammaire en jeux*, PUG, 2017 も参考に、文法事項をゲーム形式で復習する方法を実践的に学んだ。教師の挙げた単語が女性形だと思ったら立ち上がる « Assis-debout », 机の上にいろいろな物を置いてから布で覆い、何があったかを冠詞つきで答えさせる « Jeu de Kim », 動詞の複合過去／半過去形と個別に割り当てられた「秘密の単語」をともに含んだ文章を各自に発表させ、クラスがその単語を当てる « Mot mystère » 等、多くのゲ

ームにおいて、既習の文法をクラス全員が共有できるよう工夫されている点が印象的だった。

加えて、モジュールの最後には参加者が小グループに分かれて、チラシや雑誌、詩、広告動画といった document authentique をもとに教案を作成した。そのうえで資料自体の難易度や、学生の年齢・レベル設定も含め、それぞれの教案についてクラスで意見交換を行った。

#### 4. フォーラムについて

1 週目・2 週目とも、午後の授業の後にフォーラム Forum（各 2 時間）が複数用意されていた。参加者は期間全体で 5 つ選択することになっており、報告者は以下のフォーラムに出席している。いずれもコースやモジュールの授業とは相補的な関係にあり、フォーラムを通してフランス語（教育）やフランス文化についてさらに理解が深まった。

まず « Français familier » では、フランスにおける隠語や俗語の歴史の変遷や現代における使用法、単語の構成のされ方などについて多様な用例とともに学んだ。

« Socioculturel » では、フランス各地の特徴や文化的背景を整理したうえで、移民、環境問題、宗教、生活事情など、現代社会における重要なテーマについて参加者同士で意見交換を行った。

また、「Un an en France」ではフランスの年中行事を 1 月から 12 月まで順に辿ることで、各行事にどのような意義があるのかを再認識することができた。

« Média » では、フランス語初学者向けの授業における歌やラジオ音声などの活用について考察した。これらを利用した授業は中級以上の学習者向けと考えられがちだが、内容や質問の出し方を調整することで、初級の学習者に対しても有効であることを確認した。

最後に « Visite de la Médiathèque » では、CLA のメディアテックおよび CLA が運営している教

員用サイトの利用法について知ることができた。なお、報告者は自由時間を利用して、メディアテックで多様な教科書、学習参考書、フランス語教育関連書籍などを閲覧した。有用なものについてはその場でリストを作成したので、今後の教材・教授法研究に役立てたい。

## 5. 他の参加者との交流について

同じコースやモジュールを選択した参加者とは、自然と長い時間を過ごすことになった。コートジボワール、台湾、トルコ、パキスタン等、さまざまな国から来た参加者との交流は大変有益で、文化的な相違はもちろんのこと、大学における第2外国語としてのフランス語学習という、日本では一般的な文脈自体が、他国においては自明ではないという事実をあらためて認識することができた。参加者にはフランス語圏およびその他の国で初等・中等教育としてフランス語を教える教員も多く、またその教歴も様々である。異なる環境で異なるレベルの学生を相手にする教員同士、互いの経験を共有したことで、フランス語教育そのものに対する視野が広がった。

なお、CLA では同時期に、フランス語教員研修とは別に学生向けの語学研修が行われていて、日本からも複数の大学の学生が参加していた。その中に、報告者が昨年度初級の授業を担当していた学生たちがおり、図らずも嬉しい再会となった。大学の授業をきっかけにフランス語を本格的に学びだした学生を前にして、これからもフランス語やフランス文化に対する学生の関心を高められるよう、彼らの学びを支援していきたいと感じる出来事だった。



研修の修了証を手にした « Innover avec le numérique » のコース選択者、コーディネーターの C. Essaies 氏（前列左から 2 人目）およびコース教員の V. Parisot 氏（同 4 人目）とともに

## おわりに

ブザンソンでの研修を通して、フランス語教育における新たな視点や手法を学ぶことができた。とくに生成 AI やデジタルゲームの活用は、日本の大学教育において実践例が多いとはいいがたく、従来とは異なる方法によって授業をより効果的に進められる可能性を実感した。また、文法に関しては帰納的アプローチを用いることで、学生自身が言語の規則を発見する喜びを体験でき、それが学習意欲の向上にもつながるといった視点が興味深かった。

報告者が教える大学では、週に 1 コマで初級ないし中級文法の講義を行うことが多く、フランス語教育の事情は、研修中にしばしば例に挙げた他国の状況と必ずしも同じではないが、今後も技術の進歩をつねに念頭に置きつつ、学生に対してより有効な教授法を模索していきたい。

あらためて、今回の研修を支えてくださった方々に心より御礼申し上げる。この貴重な機会を通じて得た知識と経験をもとに、フランス語教育のさらなる発展に貢献していく所存である。

# Rapport sur l'Université pédagogique d'été à Besançon

Yuya YOKOTA

Du 5 au 16 août, j'ai eu la chance de participer à une formation pour enseignants de français organisée par le Centre de linguistique appliquée (CLA) de l'Université de Franche-Comté. Je tiens d'abord à exprimer ma profonde gratitude à l'Ambassade de France du Japon, à la Société japonaise de langue et littérature françaises, et à la Société japonaise de didactique du français, qui m'ont offert cette précieuse opportunité.

## 1. Sélection du parcours et du module

Avant le début de la formation, chaque participant devait choisir un parcours (au choix parmi deux) et un module parmi trois propositions. Pour ma part, j'ai opté pour le parcours « Innover avec le numérique » et le module « Enseigner la grammaire autrement ».

## 2. Parcours « Innover avec le numérique »

### 2-1. L'apport de l'IA

Dans ce parcours, nous avons d'abord exploré l'évolution de l'intelligence artificielle (IA) à travers le temps.

Nous avons ensuite essayé plusieurs IA (ChatGPT, Gemini, Microsoft Copilot, Perplexity AI, etc.) en leur soumettant le même prompt, à savoir la création de dialogues utilisables dans un cours de français, et avons comparé les résultats obtenus.

En rédigeant nos propres prompts, nous nous sommes dit que la rédaction d'un prompt constituait en soi un bon exercice de rédaction auquel nous pourrions aussi entraîner nos étudiants en classe. Leur propre utilisation de l'IA serait alors, pour eux, un facteur de motivation.

### 2-2. Le jeu numérisé

Nous avons aussi étudié l'intégration d'éléments ludiques dans l'enseignement, en analysant plusieurs exemples concrets. Nous avons découvert des applications et plateformes pratiques comme LyricsTraining, Plickers et Les Zexperts FLE, qui peuvent enrichir les activités pédagogiques.

## 3. Module « Enseigner la grammaire autrement »

Dans ce module, nous avons retracé l'évolution de la place de la grammaire dans l'enseignement du français, et exploré diverses manières d'intégrer la grammaire dans le processus d'apprentissage (grammaire explicite/implicite, grammaire déductive/inductive, etc.). Nous avons examiné plusieurs manuels et observé comment ces approches peuvent être mises en œuvre concrètement.

Nous avons aussi abordé des méthodes ludiques telles que l'activité « Assis-debout » et « Jeu de Kim » pour réviser le genre des noms ou les articles ou encore « Mot mystère » pour pratiquer les temps du passé.

Enfin, les participants ont créé des plans de cours en petits groupes à partir de documents authentiques.

#### **4. Forums**

En parallèle de ces cours, j'ai assisté à cinq forums qui couvraient divers aspects de l'enseignement du français et de la culture :

- « Français familier » : nous avons étudié l'histoire et les usages contemporains de l'argot et du français familier.
- « Socioculturel » et « Un an en France » : ces sessions nous ont permis de mieux comprendre la société et la culture françaises.
- « Média » : nous avons exploré l'utilisation de supports tels que les chansons et les émissions de radio dans les cours de français pour débutants. Contrairement à l'idée reçue, ces supports peuvent effectivement être adaptés pour le niveau A1 à condition d'ajuster les questions et les activités.
- « Visite de la Médiathèque » : nous avons découvert les ressources du CLA, et j'ai eu l'occasion de consulter plusieurs ouvrages et références qui seront utiles pour mes futurs cours.

#### **5. Échanges avec les participants**

Un aspect également très enrichissant de cette formation a été la possibilité d'échanger avec d'autres stagiaires, venus de différents pays. J'ai ainsi notamment réalisé que, contrairement au Japon où l'enseignement du français commence souvent à l'université, il est dispensé dès le primaire ou le secondaire dans de nombreux autres pays. Cela a enrichi ma réflexion sur les pratiques pédagogiques.

#### **Conclusion**

Cette formation au CLA a été une expérience extrêmement enrichissante, tant sur le plan personnel que professionnel. J'ai non seulement découvert de nouvelles méthodes et outils pédagogiques, mais aussi pris conscience de l'importance de rendre l'apprentissage ludique et motivant pour les élèves. Je remercie une fois de plus toutes les institutions qui ont rendu cette expérience possible, et je suis impatient d'appliquer les connaissances acquises dans mon enseignement.